

システムのルールです。

#### {仕掛け}

- ・単純移動平均線の21日線と90日線のゴールデンクロスで買い。
- ・単純移動平均線の21日線と90日線のデッドクロスで売り。

#### {手仕舞い}

買いの場合、売りの仕掛けと同時にドテンします。

売りの場合、買いの仕掛けと同時にドテンします。

ストップロス、リミットによる決済

#### {ポジションは一つだけ}

ポジション保有時は新たな仕掛けをしない。

#### {ロット数}

変更可能。

### システムの導入場所について ※重要※

MT4を立ち上げた後メニューバーの「ファイル」から「データフォルダを開く」を選択すると、そのMT4が参照するフォルダが立ち上がります。

システムを導入する場合この方法で開いたフォルダの「**MQL4**」>「**Experts**」へ入れてください。  
インジケーターを導入する場合はこの方法で開いたフォルダの「**MQL4**」>「**Indicators**」へ入れてください。

### ※インジケーターの表示について

インジケーターはシステムをセットしただけでは表示されませんので、手動でセットして下さい。（表示されないだけで、自動売買は問題なく行われます）

インジケーターを表示する場合はナビゲーターの中にあるインジケーターという項目の中に入っていますので、インジケーターを選びダブルクリックをして下さい。パラメーターを設定するウィンドウが出てきます。このウィンドウで色、線種、期間などのパラメーターを設定出来ます。インジケーターと自動売買システムのパラメーターは連動しておりませんので、個別にセットして下さい。パラメーターの設定をした後、OKを選んでください。

## ※パラメーター入力時の注意※

**Digits5**(ドル円が小数点 3 桁のレートの場合)のブローカーでのパラメーター入力についてです。

今までオーダーシステムでは MT4 の仕様通りに 1 pips をもっとも小さい位にしておりました。  
例えば 90.456 のレートがあった場合、6 の数字がある位になります。  
ただ、世間の認識で Digits5 の最小単位が 0.1 pips という見方をされる方が増えてまいりました。  
上記の場合、90.456 のレートの場合は 5 の数字がある位が 1 pips で、6 の数字がある位が 0.1 pips になります。

こちらのマニュアルでは、**Digits5 の最低単位を 0.1 pips** とさせていただきます。

〇〇 pips で設定するパラメーターの入力にはご注意ください。

例

ドル円の 90.456 で買いポジションを取得し、90.200 にストップロスを設定するケースでは、  
StopLoss に 25.6 と入力してください。

## パラメーターの設定です。

Slippage	スリッページの設定です。 〇〇 pips で設定します。 スリッページとは、注文価格と約定価格との差になります。 スリッページがこのパラメーター分発生した時は再注文になります。 よく分からない場合は、3 と入力しておくのが無難です。 デフォルトでは 3 になっています。
Lots	ロット数の設定です。 0. 1 で一万通貨です。(証券会社によっては異なる場合があります) デフォルトでは、0. 1 になっています。
OpenPricesMode	モードの判定をします。 OpenPricesMode が false の時は tick 毎に判定を行い、 true の時はバーが新しくなる時だけ判定を行います。 デフォルトでは true になっています。 バックテストで Open prices を使うときは true にして下さい。 それ以外のものを選択する場合は true、false どちらでも問題ありません。 また、実際に自動売買を行う場合はこのパラメーターを true に してあれば、バーが新しくなった時だけポジションを持つように出来ます。
TakeProfit	リミットの設定です。 〇〇 pips で設定します。 この機能を使わない時は 0 と入力して下さい。 デフォルトでは 0 になっています。

StopLoss	ストップロスの設定です。 〇〇pips で設定します。 この機能を使わない時は0と入力して下さい。 デフォルトでは0になっています。
MA_Fast	MAの短期の期間の設定です。 デフォルトでは21になっています。
MA_Slow	MAの長期の期間の設定です。 デフォルトでは90になっています。

## ※注意点

納品されたシステムはまずデモ口座で十分にテストされてからライブトレードされることをお勧めいたします。  
ご自身が予期していなかったルール上の矛盾や証券会社固有の不具合、システム自体の不具合などがある場合、それらを事前に発見する可能性が高くなります。

ストップロス、リミットについてですが、各証券会社ごとにストップレベル(オーダーが出せる最低 Pips)というものが設定されています。ストップレベルは証券会社、通貨ペアによって異なります。  
ストップレベル未満のストップロスとリミットを付けた場合、ストップロス、リミットを入れることが出来ずオーダー自体がキャンセルされます。  
ストップロスとリミットはストップレベル+スプレッド分以上か、もしくは使用しない場合は0を入力して下さい。  
(ストップレベルの詳しい値は気配値表示ウィンドウの通貨ペアを右クリックし、「仕様」を選択で確認出来ます)

このシステムは売買タイミングがシビアですので、バックテストを使用する時は Every tick を選択して下さい。他のモードの場合だと正常に取引しない場合があります。実際に自動売買を行う場合は問題ありませんのでご安心下さい。

自動売買を行う場合、自動売買システムのパラメーターをセットしてもチャートに表示しているインディケーターのパラメーターは変更しません。(自動売買システムのパラメーターは変更されています)  
チャートに表示しているインディケーターを変更したい場合は、インディケーターのパラメーターを変更して下さい。

時間足と通貨ペアの選択はマニュアルに書いてあります。またパラメーターの設定など何か分からない場合は、先にシステムのマニュアルを御覧下さい。

※良くあるご質問（詳しくは、同封されているマニュアルの「システムが正常に動かない場合」に記載されています。）

1: 売買がされません。（デモトレード、バックテストの場合）

デモトレードの場合はターミナルの操作履歴タブ、バックテストの場合はテストの操作履歴タブにエラーメッセージが表示されている場合が御座います。

OrderSend error 130	ストップロスかリミットの値が正しく設定されていない可能性があります。ストップレベルをご確認ください。ストップレベルの詳しい値は気配値表示ウィンドウの通貨ペアを右クリックし、「仕様」を選択で確認出来ます。ストップロスとリミットはストップレベル＋スプレッド分以上か、もしくは使用しない場合は0を入力して下さい。
OrderSend error 131	無効な取引量です。ロット数が正しいか、そのロット数で取引ができるかなどをご確認ください。
Cannot open file	システムに使うカスタムインジケーターが導入されていない可能性があります。
TestGenerator: unmatched data error (volume limit	過去のレートデータが不足している可能性があります。 過去のレートデータをダウンロードしてからお試し下さい。ダウンロードの仕方は、同封されているマニュアルの「バックテストの仕方」で説明しています。

2: 売買がされません。（リアルトレードの場合）

証券会社によっては、リアル口座で自動売買システムを稼働させるのに特別な申請がいる場合があります。デモトレードやバックテストでは稼働するが、リアルトレードでは稼働しない場合、この可能性がありますのでご確認ください。

申請が必要かどうかは、お手数ですがご利用になられている証券会社にお問い合わせ下さい。

3: 表示されているインジケーターと売買のタイミングが違う。

システムのインジケーター用のパラメーターと、チャートで表示しているインジケーターのパラメーターが同じパラメーターになっているかをご確認ください。

システムのインジケーター用のパラメーターとチャートで表示しているインジケーターのパラメーターが違っていると、システムはシステムのパラメーターで計算しますので、ポジションを取るタイミングが変わってきます。表示させるインジケーターとシステムのインジケーター用パラメーターは同じものにすれば、解消される場合があります。

## ※システムに不具合が起きた場合

システムに不具合が見つかり、お問い合わせいただく際には下記の事項に沿ってお問い合わせ頂きますようお願い申し上げます。

- ・エラーメッセージ(操作履歴タブに表示されます)
- ・不具合が起こった詳しい状況
- ・その時の画像(可能であれば)
- ・テスターの場合、モデルは何をご利用になられたか
- ・テスターの場合、バックテストの期間は  いつ   から   いつ   までの期間で行ったか。
- ・**MT4に保存されているログファイル (詳しくは下記をご参照ください。)**

以上の情報を可能な限り添えてお問い合わせ下さい。

## ※MT4に保存されているログファイルについて

不具合が起こった場合、下記の場所に保存されているログファイルをメールに添付して送ってください。

**logs フォルダは複数あります**ので、ご注意ください。

別の場所の logs フォルダからログを送って頂いた場合必要な情報がありませんので、再度正しい logs フォルダからログファイルを送っていただくことになります。

フォワードテスト(デモテスト)の場合は「**MQL4**」>「logs」の中にある該当の日付が付いているファイルです。  
日付を跨いでいる場合はそれぞれの日付のファイルを複数送ってください。

バックテスト時は「tester」>「logs」フォルダの中にある、テスト期間の日付ではなく、テストを実行した実時間の日付が付いているファイルです。